

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(講読) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 高井 たかね					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	漢書講読										
[授業の概要・目的]											
<p>日本・東洋美術史学では、作品や作者を研究する際に様々な文献を読むことがしばしば要求される。この授業では、漢文体で書かれた史料を読むための基礎的な能力を養うことを目的とする。清、李漁『閒情偶寄』器玩部をテキストとし、今年度は器玩部・制度の序を読んだあと、「箋簡」の條から読みすすめる予定。授業では、出席者に訓読および現代語訳をしてもらい、語法の確認をしながら漢文読解の訓練をおこなう。各回の担当者を決めないので、全員毎回の予習が必要。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢文読解のための基礎的知識、能力を身につける。 ・ 具体的には、漢文の語法について基礎的理解を得る、また訓読、現代語訳のために必要な基本的な工具書を知り、それらを使いこなせるようになること。 ・ 文章の背景にある中国文化に対する理解を深める。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 講義趣旨説明 清、李漁『閒情偶寄』の概要説明。授業の進め方、評価方法等についての確認。必要な工具書、参考図書の紹介。</p> <p>第2～14回 『閒情偶寄』器玩部の精読 器玩部・制度の序を読んだあと、「箋簡」の條から読みすすめる予定。器玩部を読み終われば、居室部を読み進める。進度は、はじめは半葉程度になるかと思われるが、これを2, 3回続けたあとは1回に約一葉は進むようになる。</p> <p>第15回 総括 読解部分についてまとめ、疑問点を再考する。また、前回までの進み具合によっては引き続き輪読をおこなうための予備日とする。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
<p>平常点評価 授業時の訓読・現代語訳のほか、出席も考慮する。</p>											
----- 美学美術史学(講読) (2)へ続く -----											

美学美術史学(講読) (2)

[教科書]

漢和辞典が必要。
テキスト，参考資料はコピーを配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

各回の精読箇所について、必ず予習が必要。漢和辞典等を使用して訓読、現代語訳しておく。

(その他(オフィスアワー等))

毎回、一定量のテキストを読むので、参加者には相応の予習が要求される。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。